

# リードタイム半減、全社一丸で付加価値向上を



神戸製鋼所に入社後、最初の約10年間は東京で薄板営業を担当し、2020〜22年は加古川製鉄所の副所長を経験。その間の大半を総務部門に携わり、直近2年間のラグビースター長を経て今年4月から神戸製鋼板加工の社長補佐に。

## 神鋼鋼板加工 水上孝一氏

### 小物・二次加工体制を強化

め、準備を進めてきた。取り組みも網羅し、新を強化することで安定え、今後、老朽化設備6月21日付で社長に たな課題の抽出とその受注につなげ、自社の更新を検討する。就任。社員には「今日 改善・解決を好循環さ付加価値も高めていこざー切断製品のファイよりも明日、良い会社 せ、企業・現場力の底 うとの取り組みだ。バーレーザ化も小物部ににしていこ」という気 上げにつなげたい」と。 短納期対応実現に向 材の生産能力増強の武持ちを皆で共有し、一 同社は昨年夏に厚労 け受注から出荷までの器として視野に入れて人ひとり社業に精励し 省から「安全衛生優良 「リードタイム半減」 いる。 ようと呼び掛けた。 企業」に認定され、今 を目標に掲げ、製造工 取り巻く需要環境はその実現に向け、一 春には「KOBELC 程や営業、CAD接点 厳しく「稼働も6割程

業務の見度」だが、神戸製鋼所直しから 鉄鋼事業の建材・厚板管理・物 事業の一翼を担うとの流のDX 自覚を持ちながら「来推進を全社一丸で挑戦 たる需要回復への備えする。 廃業した外注委 を怠らないように」と託先から小物用NCガ 社員を鼓舞する。(太田 一郎) ス切断機の移設も終

## 新社長

厚板溶断(切板)事 を活用しながら社員同 もつ一つが、全員参業はもとより、建築鉄 士のコミュニケーション 画による「超短工期特骨・橋梁分野向けに直 を密にし、安全・安 別対応プロジェクト」接関わるのは初めて。 心な職場づくり活動を の実践。これは、いまそれだけに現場運営や 定着させたいと考え で対応し切れなかった加工設備、顧客や需要 する。その上で「品質、二次加工を含む鉄骨向環境の把握などに努 コンプライアンスへの け小物部材の加工体制

### 略歴

水上 孝一氏(みずかみ・こういち) 1987年早稲田大学法学部卒後に神戸製鋼所入社。2012年9月法務部担当部長、15年4月総務部長、18年4月理事総務部長兼大阪支社長兼ラグビー部支援室担当役員補佐、20年4月理事鉄鋼アルミ事業部門加古川製鉄所副所長、22年4月理事ラグビーセンター長、24年4月神戸製鋼板加工社長補佐、同年6月社長就任。64年(昭和39)10月生まれ、千葉県出身。